

ご 注 意

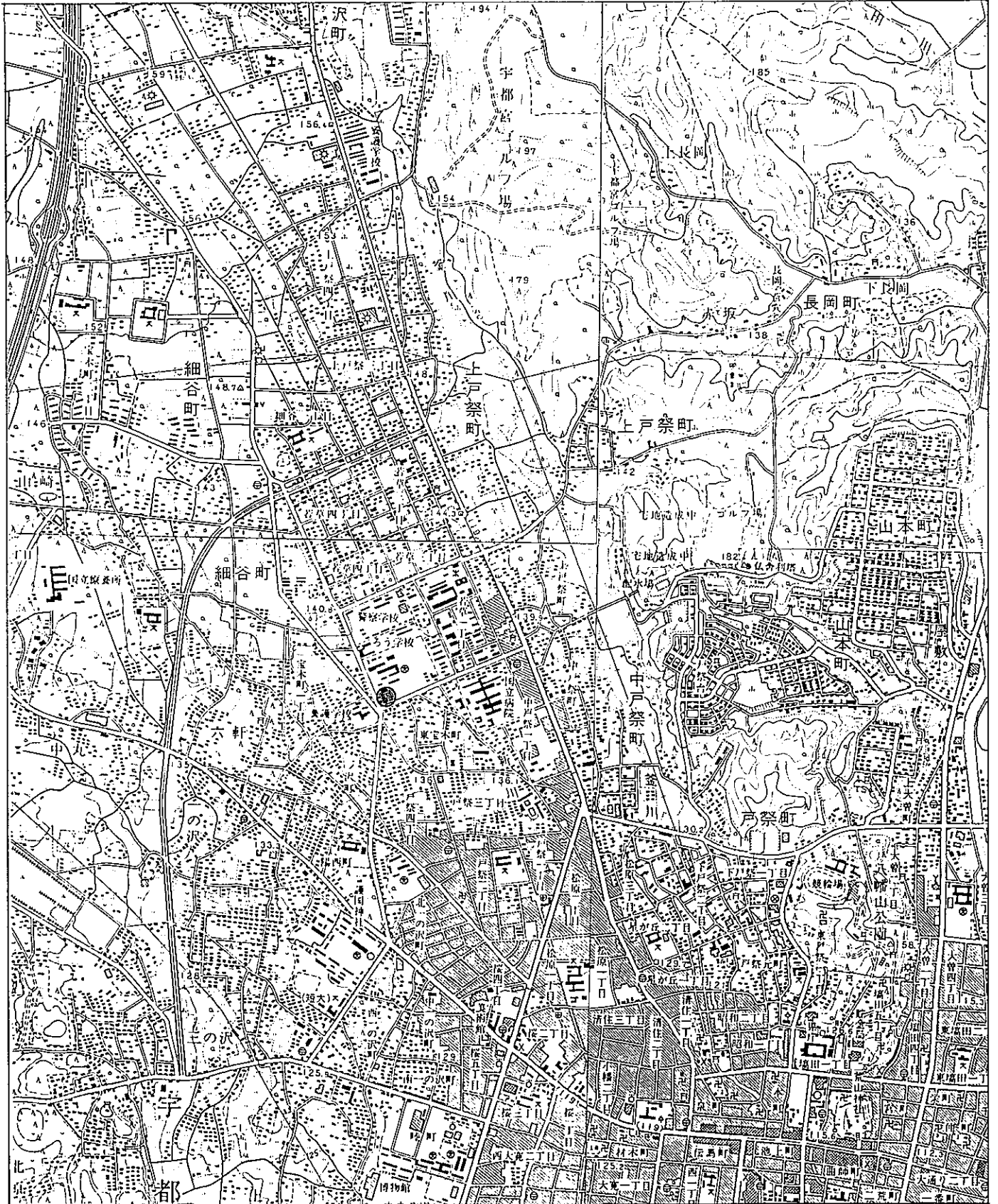
地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

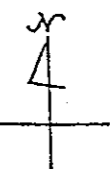
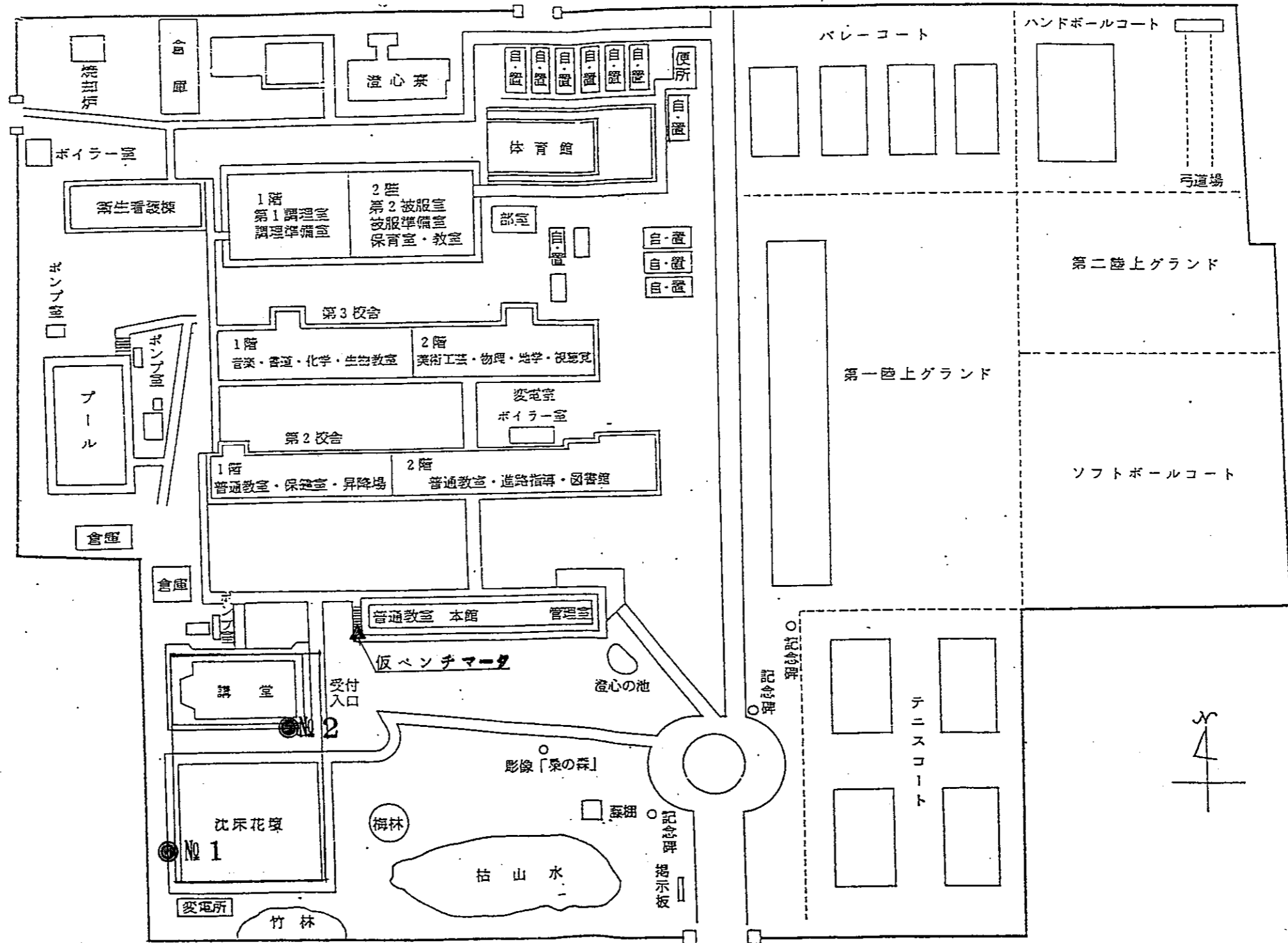
2. 調査位置図



案内図 (縮尺 1 : 25,000)

栃木県立宇都宮中央女子高等学校
校舎配置図

敷地面積 67,772.80 m²
建物延面積 14,017.94 m²



- ボーリング
- ▲ 仮ベンチマーク
階段ステップ (H=100.00mとする)
計画GL+0.1m

配置図

ボーリング柱状図

調査名 宇都宮中央女子高校講堂兼体育館新築工事地質調査業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	N O . 1	調査位置	宇都宮市若草2-2-46
発注機関	栃木県建設技術センター		
調査業者名	主任技師		
ボーリングNo.	現場	調査期間	平成2年6月8日～2年6月9日
調査者	コバヤシ	鑑定者	ボーリング責任者
ボーリングNo.	カノ K R - 1 0 0	ハンマー	コーンブーリー
ボーリングNo.	ヤンマー NS - 7 5	落下用具	カノボーリングV6-A
ボーリングNo.	エンジン	使用機種	ボーリング
ボーリングNo.	水平	地盤記配	鉛直 90°
ボーリングNo.	北 0°	方位	270° 西 180° 南
ボーリングNo.	180° 上 90° 下	角度	90°
ボーリングNo.	99.72m	孔口標高	ボーリングNo.
ボーリングNo.	9.28m	総掘進長	ボーリングNo.

シートNo.

標尺 (m)	層厚 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	対密度	対稠度	記 事	孔内水位 (m)	標準貫入試験		原位置試験	試験採取	掘進月日
											深度 (m)	N 値			
1	1.30	98.42	1.30		盛土	黒	軟らかい	軟らかい	玉石、コンクリートを混入する腐植土である	6.0	3	深さ	採取		
2	0.80	97.62	2.10		腐植土	黒	軟らかい	軟らかい	含水率が中位である。腐植土、軽石を混入している。下部は軽石が多い。	5.60	4	深さ	採取		
3	2.10	95.52	4.20		ローム	赤褐	軟らかい	中位	粘性中位のロームである。炭化物、軽石を混入している。下部は軽石が多い。	5.60	3	深さ	採取		
4	1.10	94.42	5.30		腐植土	黄褐	軟らかい	軟らかい	含水量が非常に多い。φ2~5mm程度の粒径である。乳灰色を帯びる。	5.60	5	深さ	採取		
5	1.10	93.32	6.40		ローム	赤褐	軟らかい	軟らかい	上部はやや粘土質である。下部は含水量多くなり粘性が大きい。	5.60	6	深さ	採取		
6	2.88	90.44	9.28		砂礫	褐灰	非常に	非常に	φ2~75mm程度の重円礫が主体である。φ100~200mm内外の玉石を点状にしている。礫間は粗砂により密実充填されている。所々に風化礫を混入している。礫種は石英角礫、安山岩類が多い。	5.60	8	深さ	採取		

<凡例> 柱状図および土質区分

区分	分類名	記号
土質	砂	
	シルト	
	粘土	
	有機質土	
材料	砂	
	シルト	
	粘土	
	有機質土	

区分	分類名	記号
補助記号	砂	
	シルト質	
	粘土質	
	有機質	
	火山灰質	
	高有機質	
	高有機質	

区分	分類名	記号
土質	砂	
	シルト	
	粘土	
	有機質	
	火山灰	
	高有機質	
	高有機質	
	高有機質	
	高有機質	
	高有機質	
高有機質		

試験採取方法

- ① シンクウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ () による

備考

ボーリング柱状図

調査名 宇都宮中央女子高校講堂兼体育館新築工事地質調査業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	N O . 2		調査位置	宇都宮市若草2-2-46		シートNo.	北緯
発注機関	栃木県建設技術センター		調査期間	平成22年6月9日~22年6月10日		東経	
調査業者名	主任技師		現場代理人	コアアプ 鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	100.12m	方位	北 270°	カノ K R - 1 0 0	ハンマー	コーンブローリー	
総掘進長	11.25m	角度	180°上 90°東 180°南	エンジン	落下用具	カノボーリングV6-A	

標尺	層厚 (m)	標高 (m)	柱状図	土質区分	色	相対稠度	相対密度	記	標準貫入試験			原位置試験	試験採取	掘進月日
									深 (m)	度 (m)	値			
1	1.00	99.12	盛土	盛土	黒	軟らかい	軟らかい	砕け混じり腐植土が主体である φ2~50mm程度の礫である	深 1.15	度 1	値 2	試験採取	掘進月日	
2	1.20	97.92	腐植土	腐植土	黒	軟らかい	軟らかい	含水量は中位である 高有機質で腐植物を混入	深 2.15	度 2	値 6	試験採取	掘進月日	
3	2.20	95.92	ローム	ローム	茶褐色	軟らかい	軟らかい	粘性中位のロームである 炭化物、軽石を混入している 下部は軽石が多い	深 3.15	度 1	値 3	試験採取	掘進月日	
4	2.00	94.92	鹿沼砂	鹿沼砂	黄褐色	軟らかい	軟らかい	含水量が非常に多い φ2~5mm程度の粒径である	深 4.15	度 2	値 4	試験採取	掘進月日	
5	1.00	94.92	ローム	ローム	茶褐色	軟らかい	軟らかい	上部に小礫を混入している 下部は含水量多くなり粘性が大きい	深 5.15	度 1	値 2	試験採取	掘進月日	
6	0.80	94.12	砂・礫	砂・礫	褐色	軟らかい	軟らかい	φ2~75mm程度の亜円礫が主体である φ100~200mm内外の玉石を 点状に含んでいる 礫間は粗砂により密実に充填されている 10.0m付近より砂分が多い 所々に風化礫を混入している 礫間は石英珪岩、安山岩類が多い	深 6.30	度 2	値 1.7	試験採取	掘進月日	
7									深 7.36	度 2	値 1.4	試験採取	掘進月日	
8									深 8.15	度 2	値 1.4	試験採取	掘進月日	
9									深 8.34	度 2	値 1.4	試験採取	掘進月日	
10									深 9.15	度 2	値 1.4	試験採取	掘進月日	
11									深 9.26	度 2	値 1.4	試験採取	掘進月日	

凡例

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	例採取
土質	礫 (G)	○●●●
土質	土(GF)	●●●●
砂	砂 (S)	○●●●
土質	土(SF)	●●●●
シルト	シルト (M)	
粘性土	粘性土 (C)	
有機質土	有機質土 (O)	
火山灰質粘性土	火山灰質粘性土 (V)	
高有機質土(腐植土)	高有機質土(腐植土) (PO)	

第2分類

区分	分類名	例採取
砂	質(S)	
シルト	質(M)	
粘土	質(C)	
有機質	質(O)	
火山灰質	質(V)	
玉石混り	混り(-B)	
砂質、腐植混り	混り(-G)	
砂混り	混り(-S)	
シルト混り	混り(-M)	
粘土混り	混り(-C)	
有機質土混り	混り(-O)	
火山灰質土混り	混り(-V)	
比較混り	混り(-Sh)	

第3分類

区分	分類名	例採取
硬岩	岩(HR)	
中硬岩	岩(MR)	
軟弱風化岩	岩(WR)	
珪岩	珪岩(B)	○●●●
浮石(軽石)	浮石(Pm)	△△△
シラ	ス(Si)	△△△
スコリア	ア(Sc)	△△△
火山灰	灰(VA)	△△△
ローム	ム(Lm)	△△△
黒ボク	ク(Kb)	△△△
マサ	マ(WG)	△△△
灰	灰(Sa)	△△△
埋	埋(FI)	△△△
底	底物(W)	△△△

試験採取方法

- ① シンウォールサンブラーによる
- ② デニソンサンブラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイエルサンブラーによる
- ⑤ ()による

備考